

名前:

インターネットが誰でも気軽に使える時代になった。インターネットは様々な新しい情報もあつという間に取り寄せることができ、それゆえこれまで主流だった新聞・雑誌等の紙媒体にとって代わるのではという声もある。

しかし、僕自身はこれからも新聞や雑誌は必要であると考えている。そう考える根拠は以下の三つである。

まず第一に、インターネットは誰でも利用できるため、自由に情報を掲載することができ、さうい、た情報の中には信憑性の薄いものも多々存在する。その一方で新聞や雑誌の記事は身分のはっきりとした人が書くため、信頼できる情報が多く、また間違ったことが書かれないうちエツリする体制も整っている。要するに情報が信用できるものかについて、新聞や雑誌がインターネットに勝っているのである。

第二に、インターネット上のウェブサイトで、基本的に1つのページには1つの情報

しか出てこない。またパソコンなどの画面の大きさにも限度があるため、一度に目に入ってくる情報の量は少なくなる。一方で新聞などは紙の大きさや様々な情報が一度に視界に入り、さりげなく書かれている興味深い記事に気づくことも多い。雑誌にも多種多様な情報が出ていて、ぱらぱらとめくっていろいろに様々な発見をする可能性がある。

第三に、パソコンは持ち運べない(デスクトップ型の場合)、起動に時間がかかる、などの欠点がある。新聞や雑誌などは何かを知りたくなった時にサッと取り出して目的のページを開くことができる。紙媒体に書かれた情報の方が素早く確認できるのである。

以上のように、紙媒体にはインターネットにはない長所がいくつか存在するのである。今後インターネットの普及が広がりを見せても、電子媒体と紙媒体が共存する状態が好ましいと考えている。